

『いい仕事ができる人の考え方』
あなたの「働きモード」が変わる36のQ&A
ブック案内<PDF版>

著・村山 昇



好評発売中！

ディスカヴァー・トゥエンティワン
価格：1400円＋税

はじめに 「働くこと」は進化しているか

■第1章 「疲」モードから「快」モードへ 生き生き働く仕事人になる

○会社に理想をもった私がバカだったのでしょうか？

最初の仕事は「くじ引き」でいい

○キャリアアップして、負け組にならないように頑張らねば・・・

キャリアは「アップ・ダウン」ではない。「勝ち・負け」でもない

○目標達成に疲れを感じます。どうすれば気力が湧いてくるのでしょうか？

あなたの仕事に「意味」を与えよ

○このまま気力がしおれてしまうんじゃないかと不安なのですが・・・

「与えられる動機」だけでは長続きしない

○長く仕事をやっていけるように、仕事の動機をどうすればいいのでしょうか？

「深い動機」は仕事を長続きさせる

○品質に問題がある商品売ること気が引けるのですが・・・

仕事の喜びとは「おすそ分け」

○会社はヒトを材料としか考えていないのではないのでしょうか？

「人材」ではなく「人財」になろう

■第2章 「閉」モードから「開」モードへ 仕事の能力を開く

○異動希望を受け付けてもらえないので、転職を考えているのですが・・・

日本一の下足番になれ！

○最も重要な才能は何でしょうか？

才能の王様は「持続する力」

○自分の意見をうまく言えるようにするにはどうすればいいのでしょうか？

書き出して「目に見える形」にして考える

○自分を成長させるには、どうすることが一番いいですか？

あえて枠をはみ出してみる

○後輩のメンターになりました。忙しいし、正直、面倒なのですが・・・

教えることで自分が成長できる

○社員の能力開発の費用は会社に出してもらいたいのですが・・・

惜しげもなく身銭を切る人が伸びる

○結果とプロセス、どちらが大事なのでしょうか？

「プロセス」はウソをつかない

○会社を辞めた元同僚に五年ぶりに会いました。たくましくなっていました・・・

「サラリーマンの鈍化病」にかかっていないか？

■第3章 「重」モードから「軽」モードへ 人間関係を軽やかにする

○早く独立して、自由に伸び伸び働きたいのですが・・・

「雇われる生き方」「雇われない生き方」を冷静に考える

○リーダーになりました。引っ張っていくタイプでもなく、とても不安です。

組織では「気楽な関係」がよい人間関係ではない

○上司に恵まれません。いつも苦勞ばかりしています。

「上司をマネジメントする」と発想してみる

○政治力や処世術が出世を決めている気がします。バカらしく思うのですが・・・

おおいに出世しよう！

○入社して十年になります。「このままでいいのかな？」と不安です。

コスモポリタンな世界観を持つ

○転職は会社への裏切りなんでしょうか？
よい転職は「巣立ち」である

■第4章 「暗」モードから「明」モードへ 仕事の景色を明るく変える

○自分が本当に何をやりたいのか、自分探しをしてみたいのですが…
「自分探し」ではなく「自分試し」をせよ

○「十年後の自分を描け」というシート、まったく書けないのですが…
ある意味、行き当たりばったりでよい

○夢とか志があまりに遠すぎます。何から始めればよいのでしょうか？
まずはベクトルとイメージを作ってみる

○脈絡のない人事異動で、
一貫性のある能力や経歴が築けないと不安なのですが…
誰もが持っている「偶然を必然化する力」

○カネを稼ぐことが働く目的ではないのでしょうか？
お金は仕事の「条件」であって、「目的」ではない

○お金以外の報酬には何があるのですか？
最大の報酬は「次の仕事機会」

○仕事と生活を対立するものとして区別することに違和感があるのですが…
理想は「公私融和」の生活

■第5章 「弱」モードから「強」モードへ 働き観を強くする

○幸せな職業人生を送る人の共通点は何でしょうか？
強い「働き観」がよい循環を起こす

○雇われの身で仕事に感動を求めるのは何かむなし気がするのですが…
梵鐘を割り箸でたたくな！丸太でたたけ！

○人生は、自分の努力の範囲で変えられることって少ないように思います…
「自分が変わる→環境が変わる」と腹構えする

○「天職」って何ですか？ 誰しも天職を見つけることができるのでしょうか？
三つの「テンシヨク」を心得る

○仕事のラクな事業部と、給料がたいして違いません。不公平だと思います。
仕事の幸福とは「坂を上る」こと

○貢献度は高いものの、いまひとつ評価されません。私も成功したいのですが…
成功と幸福は別ものである

○数字や競争にとらわれて、ものをつくり出す根本を忘れがちではないですか…
仕事の中に自然体の「ありがとう」を込める

○今の世の中は、欲望がエスカレートして危うくなっていませんか？
心のマスターとなれ

参考文献
あとがき

はじめに

「働くこと」は進化しているか

システムエンジニア、コピーライター、インテリア・コーディネーター、ファイナンシャル・プランナー、アタッシュ・ド・プレス・・・旧世代の人たちが「???」となるような新しい種類の仕事が、年々出現してきます。

現代社会は科学技術の進歩に合わせて、職業・職種を急速に進化させています。確かに私たちは、たった数十年前と比べても、格段に職業選択の幅が広がりましたし、日々の仕事は高度に専門化され、パソコンやネットワーク技術などによって業務は効率化されつつあります。

しかし、私たちは立ち止まって静かに考えると、重大なことに気がつきます。

——職業や仕事・業務がこれだけ進化を遂げているのに、「働くこと」はいつこうに進化していかない。進化しないどころか、むしろ退化しているようにさえ思えることです。

人類は、原始の時代からずっと働いてきました。ですが現代に働く私たちは、昔の人びと以上に働く楽しさや喜びを得ているのでしょうか？あるいは、彼らよりも働く辛さやしんどさが軽減されているのでしょうか・・・？

あなたは「悶々人」か、それとも「快活人」か？

私はいま、「仕事とは何か？」「自律的な個として強いプロフェッショナルとは何か？」などを研修プログラム化して、企業の現場で実施することを生業としています。

そこで私は、どうやら働き人（特に平成のビジネスパーソンたち）には、二種類あるのではないかと観察しています。——その二種とは、働くことの「悶々人」と「快活人」です（第三種として「能天気人」もありますが、少数派なのでこの本では省きます）。

「悶々人」は、日々、次のような四つの心理モードに覆われがちです。

- 疲＝目の前の職・仕事の「ツラさ・しょうがない感」
- 閉＝自分の知識・能力が「行き詰っている」
- 重＝職場の人間関係が「重い・つながらない」
- 暗＝キャリア・人生の先行きが「不安・不透明」

ところが一方、世の中にはそうした「悶々」の働き人ばかりではない。同じような職場環境、人間関係のストレス下でも嬉々として自分の仕事に打ち込める人

は少なからずいます。自分なりに働くことを楽しみ、深めている——それが「快活人」です。

「快活人」の心理モードは次のようなものです。

- 活＝目の前の職・仕事が「面白い・感謝！」
- 開＝知識・能力が「どんどん開く感じ！」
- 軽＝人間関係が「軽やか・つながる感じ！」
- 明＝キャリア・人生の先行きを「楽観・期待！」

「働き観」があなたの心理モードを決めている

さて、こうした<疲・閉・重・暗>モードの人と、<活・開・軽・明>モードの人との差（あるいは、一個人の中でも、長い職業人生の間には、悶々モードで停滞するときと快活モードで発展するときの差がありますが）——これはどこからくるのでしょうか？

才能の差でしょうか、性格の差でしょうか。それとも、環境の差、努力の差、たまたまの運の差・・・私はそれはひとえに、「働き観」を強くはっきりと持っているかどうかで生じるものだと思っています。


「働き観」とは、働くことに対する信条、主義、哲学、倫理、精神など、その人の奥底に横たわる「ものの考え方・心構え」のことです。仕事観と表記してもよいのですが、私はあえて、「働く」という基本動詞にかかわる観として「働き観」と書いています。人はそれぞれに、働き方・働き様を体現しますが、その根っこにあるものは「働き観」です。

働くことの根っこを見つめれば、仕事の景色が変わる！

キャリアアップを図れということ、書店に行けばたぐさんのスキルアップ・知識本が並んでいます。また、成功する(?)転職のノウハウ情報もネットには溢れています。中には、風水で運気を変える雑誌の特集記事もあります。

これらはそれなりに一理があって、確かに多少の効果が出るかもしれませんが。しかし、結局は対症的な処置であるように思います。根本をみつめて自分の観をつくらなければ、この先も場当たりの右往左往しながら働いていく状況から脱することはできないでしょう。


職業や仕事が多岐に複雑化し、利益やら効率やらスピードやらが容赦なく追っかけてくるビジネス社会にあって、対症療法でやり過ごすのではなく、今こそ、働くことの体質改善（心質改善というべきでしょうか）に取り組む必要がある。観を持つことで、環境に振り回されるのではなく、環境を活かすことができ

 「悶々人」の心理モード

- 疲** 職・仕事が「ツライ・しょうがない感・・・」
- 閉** 知識・能力が「行き詰っている感じ・・・」
- 重** 人間関係が「重い・つながらない感じ・・・」
- 暗** キャリア・人生の先行きが「不安・不透明・・・」

なぜなら、

- 弱** 働き観が「弱い・あいまい」になっているから

 「快活人」の心理モード

- 活** 職・仕事が「面白い・感謝！」
- 開** 知識・能力が「どんどん開く感じ！」
- 軽** 人間関係が「軽やか・つながる感じ！」
- 明** キャリア・人生の先行きを「楽観・期待！」

なぜなら、

- 強** 働き観が「強い・はっきり」になっているから

るようになる。観を持ってこそ、スキルを磨く、知識を増やす、転職を手段として選ぶ、などが本質的な効果を出し、職業人生は力強く展開しはじめる——私はこの本でそれらを伝えたいと思いました。

現在、働くこと・目の前の仕事に対し、疲れている人、閉塞感のある人、重苦しい人、暗澹としている人は、この本で働く根っこを見つめ、観を養う取っ掛かりにしていれば幸いです。そうなれば、明日からの仕事景色が変わり、状況がしっかりと動き出すはず。他方、現在働くことが楽しく意気揚揚と燃えている人は、改めて自分の観を見直していただき、さらなる躍動のための足がかりとしてください。

また、この本は悩める若年ビジネスパーソンの問いが最初にあり、それに答える形になっています。会社の現場では、おそらく上司や経営者の方々はこうした部下の問いに対し、真正面から答えを発することを避けているケースも多いのではないのでしょうか。そうした意味で、この本は上司や経営者の立場にある人にも読んでいただきたいものです。

いずれにしても、私たちは生涯にわたり相当に多くの時間と労力と精神を「働くこと・仕事」に捧げます。どうせそれだけのものを捧げるなら、働くことを快活なものにしないと「モッタイナイ！」。

快活とは、簡単に言えば「楽しい」ということです。ただし、楽しいとは楽（ラク）という意味ではありません。真の楽しさとは、決して楽（ラク）ではないが、もりもりと挑戦意欲の湧くこと、自分をまるごと投入できること、想いを共にする人たちと出会えること、今生の思い出になること、経験を重ねるごとに深い世界へ誘われること、です。

では、仕事に向き合うモードを「悶々」から「快活」に変える三十六のQ&Aの扉を開きましょう。



【すべてのビジネスパーソンへ】

・・・意味の下で働くとき、私は「まるごと生きている」という腹応えを得ます。五感（六感）と五体を惜しげもなく総動員させて、四六時中、仕事のテーマに想いを巡らせ、行動を起こすことが楽しい。仕事の苦労やストレスはなくならないが、それを乗り越えるエネルギーはいくらでも湧いてくる。そして、一つ動けば、一つ先の景色が見えてくる。それにワクワクできる——そんな腹応えです。

働くことを十全に司ることができ、私生活とうまく融合させていくためには、強くまっとうな「働き観」が必要です。

この本が読者のみなさんの働き観を強くし、それぞれの「働く意味」を見出す一助になれば、書き手としてそれ以上の喜びはありません。一人ひとりの働き手が、それぞれに腹応えのある職業人生を得られんことを切に願っています。（本書「あとがき」より）

【企業・団体の人財育成担当者様へ】

優れた組織とは、「自律した強い“個”」と、「大いなる理念・ビジョンの下にヒト・モノ・カネ・情報を巧みに結合させる“全”」によって形成されます。個と全が互いに影響し合い、それが善循環となるための基本条件は何でしょうか？

・・・それは一個一個の働き手たちが、「働くことは何か？」「仕事を成すとはどういうことか？」「組織の中で自律的に振舞うとはどういうことか？」など、働くマインドの基盤を堅固に持つことではないでしょうか。キャリア・ポートレート コンサルティングでは、そうした自律マインドを醸成するキャリア教育プログラムをさまざまに提供しています。詳細は下記ウェブサイトにて発信しております。

本著およびこのPDF版資料に関するお問い合わせは、 info@careerportrait.jp まで、メールでどうぞ。

著者プロフィール

村山 昇(むらやま・のぼる)

1986年慶應義塾大学・経済学部卒業。プラス、日経BP社、ベネッセコーポレーション、NTTデータを経て、03年独立

現在、キャリア・ポートレートコンサルティング代表

94-95年イリノイ工科大学大学院「Institute of Design」(米・シカゴ)研究員

07年一橋大学大学院・商学研究科にて経営学修士(MBA)取得

企業の従業員、公務員を対象に「プロフェッショナルシップ」(一個のプロであるための基盤意識)研修やキャリア教育プログラムを開発・実施する。

ホームページは、<http://www.careerportrait.jp>

著書に、『“働く”をじっくりみつめなおすための18講義』『上司をマネジメント』(以上、クロスメディア・パブリッシング)、『ピカソのキャリア・ゆでガエルのキャリア』(すばる舎)。共著に『ギフトからヒットが生まれる』(日本経済新聞社)、『メイド・イン・ジャパンの時代』(日経BP社)がある